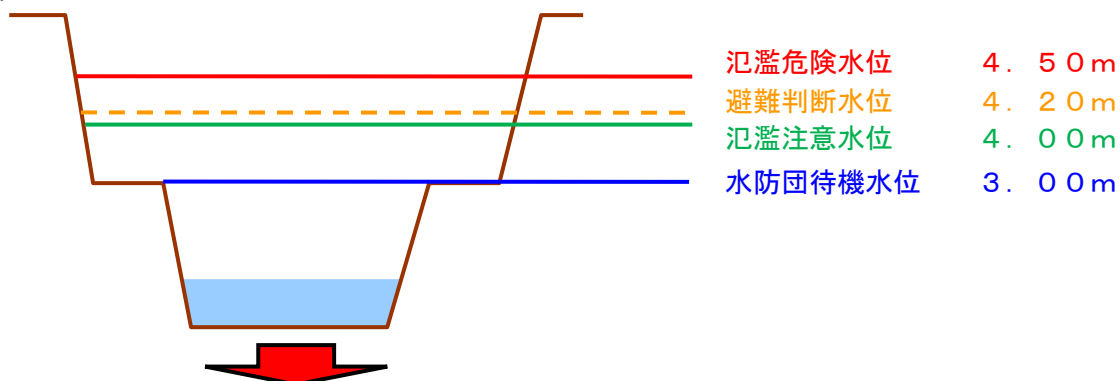
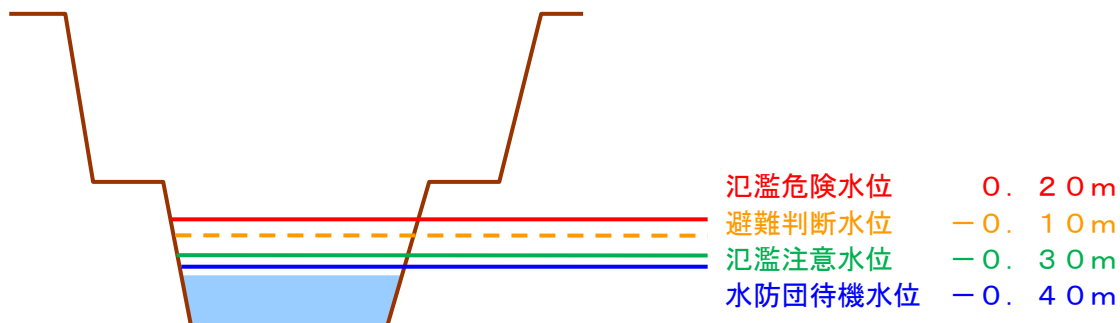


【矢掛水位観測所(13.0kp)】

従来



当面の運用



見直しの考え方

- ① 現在、堤防決壊箇所(3.4kp)で洪水が安全に流下する高さは堤内地盤高です。
- ② ①の高さの流量は、約 $40\text{m}^3/\text{s}$ と見込まれます。
- ③ 堤防決壊箇所の上流にある矢掛水位観測所で $40\text{m}^3/\text{s}$ が流下する水位から避難に必要な時間中の水位上昇分を減じて氾濫危険水位を設定しました。
- ④ 避難判断水位は、氾濫危険水位より1時間の水位上昇分低い水位で設定しました。氾濫注意水位は、避難判断水位より1時間の水位上昇分低い水位で設定しました。水防団待機水位は、氾濫注意水位より30分の水位上昇分低い水位で設定しました。
- ⑤ 緊急復旧対策が完了するまでは、今回見直しを行った水位で洪水予報の発令等を行います。

水位危険度 レベル	水位	求める行動の段階
レベル5	氾濫の発生以降	氾濫水への警戒を求める段階
レベル4	氾濫危険水位から氾濫発生まで	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫の発生に対する対応を求める段階
レベル3	避難判断水位から氾濫危険水位まで	避難準備等の氾濫発生に対する警戒を求める段階
レベル2	氾濫注意水位から避難判断水位まで	氾濫の発生に対する注意を求める段階
レベル1	水防団待機水位から氾濫注意水位まで	水防団が体制を整える段階